

畜産経営環境保全実態調査について

平成 30 年 7 月 1 日現在

滋賀県農政水産部畜産課

1. 畜産経営農家戸数

畜産経営農家戸数は164戸であり、主な飼養畜種による内訳は乳用牛46戸、肉用牛76戸、豚2戸、採卵鶏31戸、肉用鶏9戸となっている。戸数の増減については、前年に比べて、乳用牛2戸、肉用牛1戸、豚2戸の減少、肉用鶏1戸の増加、採卵鶏の増減はなく、合計で4戸減少した。

畜種	農家戸数	前年	飼養戸数 対前年比(%)	管理基準適用状況	
				基準対象	基準以下
乳用牛	46	48	95.8	42	4
肉用牛	76	77	98.7	72	4
豚	2	4	50.0	2	0
採卵鶏	31	31	100.0	19	12
肉用鶏	9	8	112.5	2	7
計	164	168	97.6	137	27

※資料 ・表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

・図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

2. 畜産経営に起因する苦情の発生状況（注1）

畜産経営に起因する苦情の発生件数は16件で、昨年と比較して2件増加した。

苦情発生率（注2）は9.7%（前年8.3%）となり、前年より増加した。

内容別にみると、悪臭関連が14件であり、このうち、害虫発生を伴うものが5件、水質汚濁を伴うものが1件あった。

畜種別発生件数は、乳用牛が2件、肉用牛が2件、豚が1件、採卵鶏が9件、肉用鶏が1件、その他が1件であった。

	苦情の内容								対応策			
	水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁悪臭発生	水質汚濁害虫発生	悪臭発生害虫発生	その他	計	処理施設助成	処理衛生技術指導	紛争の仲介	その他
乳用牛		1					1	2	1	1		
肉用牛		2						2		1		1
豚						1		1				1
採卵鶏		4	1			4		9		5		3
肉用鶏				1				1		1		
その他		1						1		1		
計		8	1	1		5	1	16	1	9		5

注1：発生件数は当該年の7月1日までの1年間に市町等行政機関に届け出られたもの

注2：苦情発生率＝発生件数／畜産経営農家戸数

※資料 ・表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況

・図2 年次別苦情発生件数

3. 家畜排せつ物の処理と利用について

家畜排せつ物の年間発生量（注1）は、乳用牛 48.0 千トン、肉用牛 179.6 千トン、豚 7.6 千トン、採卵鶏 17.5 千トン、肉用鶏 4.1 千トンで、合計 256.8 千トンと推定される。

処理方法別の仕向け量は、発酵処理が 230.4 千トン（89.7%）、乾燥処理が 19.3 千トン（7.5%）、直接還元処理が 7.1 千トン（2.8%）となっている。

堆肥の利用状況は、全ての堆肥が肥料や土づくり等で農業利用されており、その利用先内訳は自己所有圃場 49.6 千トン（28.4%）、他人所有圃場 77.3 千トン（44.3%）、販売 47.7 千トン（27.3%）となっている。他人所有圃場への利用には、耕種農家との稲わら交換や飼料用米生産等の耕畜連携の取組が含まれている。

（単位：千 t/年）

	ふん尿 発生量	仕向け量			堆肥量	堆肥利用状況			
		発酵 処理	乾燥 処理	直接還元 処理		自己所有 圃場	他人所有 圃場	販売	浄化 放流
乳用牛	48.0	38.3	4.8	4.9	32.7	16.6	10.2	5.8	0.0
肉用牛	179.6	166.3	12.4	0.9	122.1	30.5	62.6	29.0	0.0
豚	7.6	7.6	0.0	0.0	5.2	0.0	3.4	1.8	0.0
採卵鶏	17.5	14.3	1.9	1.3	11.9	2.3	0.7	8.9	0.0
肉用鶏	4.1	3.9	0.1	0.0	2.8	0.2	0.3	2.3	0.0
計	256.8	230.4 (89.7%)	19.3 (7.5%)	7.1 (2.8%)	174.6	49.6 (28.4%)	77.3 (44.3%)	47.7 (27.3%)	0.0 (0.0%)

注1：発生量は、家畜飼養頭羽数に原単位を乗じて算出したもの

※資料 ・表3 家畜排せつ物発生量

・図3 年次別家畜排せつ物総発生量

・別紙「堆肥の利用」

表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

乳用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H24	66	95.7	66	100.0
H25	62	93.9	62	100.0
H26	60	96.8	60	100.0
H27	57	95.0	55	96.5
H28	49	86.0	49	100.0
H29	48	98.0	48	100.0
H30	46	95.8	42	91.3

肉用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H24	93	98.9	81	87.1
H25	90	96.8	79	87.8
H26	88	97.8	82	93.2
H27	86	97.7	78	90.7
H28	80	93.0	73	91.3
H29	77	96.3	70	90.9
H30	76	98.7	72	94.7

豚	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H24	7	63.6	4	57.1
H25	5	71.4	4	80.0
H26	5	100.0	4	80.0
H27	5	100.0	4	80.0
H28	5	100.0	3	60.0
H29	4	80.0	3	75.0
H30	2	50.0	2	100.0

採卵鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H24	42	93.3	29	69.0
H25	38	90.5	26	68.4
H26	38	100.0	25	65.8
H27	36	94.7	23	63.9
H28	33	91.7	20	60.6
H29	31	93.9	19	61.3
H30	31	100.0	19	61.3

肉用鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H24	11	100.0	3	27.3
H25	9	81.8	3	33.3
H26	10	111.1	3	30.0
H27	9	90.0	3	33.3
H28	8	88.9	2	25.0
H29	8	100.0	2	25.0
H30	9	112.5	2	22.2

※管理基準とは家畜排せつ物法第3条に基づき、畜産業を営む者が遵守すべき基準
 管理基準適用対象は、牛は10頭以上、豚は100頭以上、鶏は2,000羽以上

図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

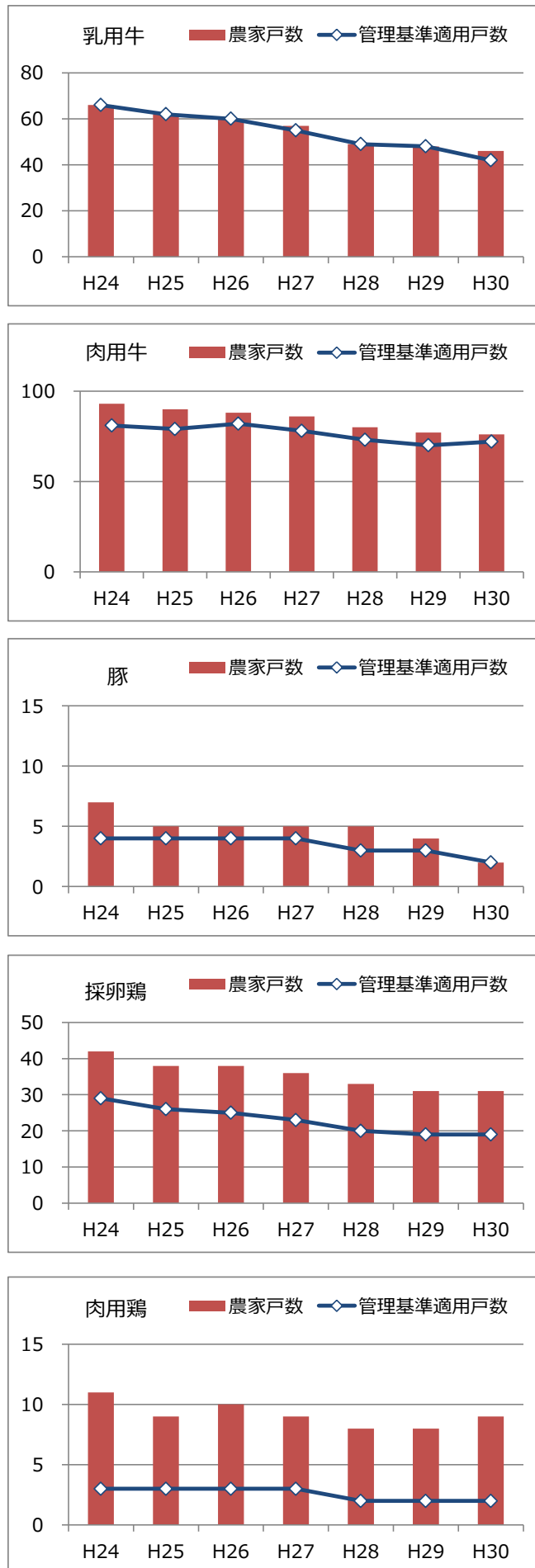
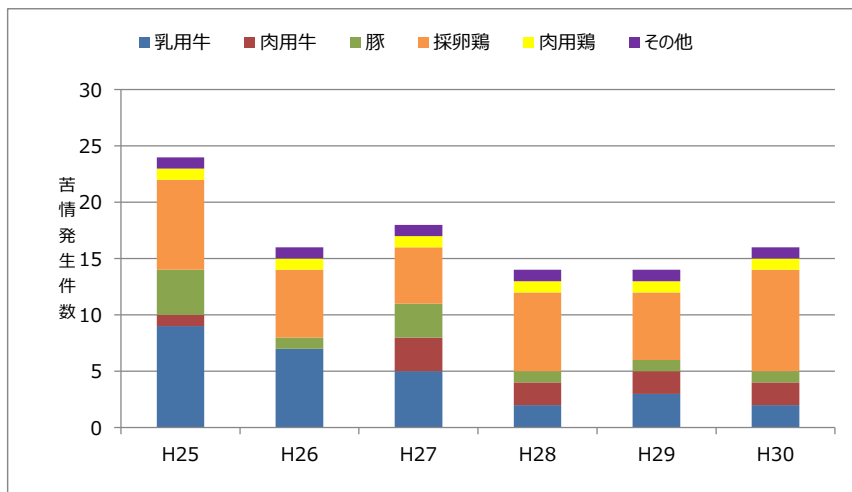


表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況

年度	区分	苦情の内容							対応策					
		水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁と悪臭発生	水質汚濁と害虫発生	悪臭発生と害虫発生	その他	計	処理施設助成	処理衛生技術指導	移転の斡旋	紛争の仲介	その他
25	乳用牛		9						9		9			
	肉用牛		1						1		1			
	養豚		4						4		4			
	採卵鶏		7				1		8		8			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
	計		22		1		1		24		24			
26	乳用牛		6	1					7		7			
	肉用牛								0		0			
	養豚		1						1		1			
	採卵鶏		5				1		6		6			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
	計		13	1	1		1		16		16			
27	乳用牛		3					2	5		5			
	肉用牛							3	3		3			
	養豚		1		2				3		3			
	採卵鶏		2				3		5		5			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
	計		7		3		3	5	18		18			
28	乳用牛		1					1	2		2			
	肉用牛		1					1	2		1		1	
	養豚						1		1				1	
	採卵鶏		2				5		7		4		3	
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
	計		5		1		6	2	14		9		5	
29	乳用牛		2					1	3	1	2			
	肉用牛		2						2		1		1	
	養豚						1		1				1	
	採卵鶏		2				4		6		3		3	
	肉用鶏				1				1				1	
	その他		1						1		1			
	計		7		1		5	1	14	1	7		6	
30	乳用牛		1					1	2	1	1			
	肉用牛		2						2		1		1	
	養豚						1		1				1	
	採卵鶏		4	1			4		9		5		3	1
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
	計		8	1	1		5	1	16	1	9		5	1

図2 年次別苦情発生件数



	H25	H26	H27	H28	H29	H30
戸数 (戸)	204	201	193	175	168	165
苦情発生率	11.8%	8.0%	9.3%	8.0%	8.3%	9.7%

表3 家畜排せつ物発生量

	総発生量 (t/年)					肥料成分推定量		耕地面積 (ha)			耕地面積あたり窒素負荷量 (kgN/ha)	
	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	窒素 (tN/年)	リン (tP/年)	田	畑			
H25	261,857	60,376	164,474	13,133	19,468	4,406	1,839	261	53,300	49,100	4,180	34.5
H26	258,451	57,979	163,658	13,499	18,782	4,534	1,817	257	53,000	48,900	4,150	34.3
H27	254,380	56,388	162,621	12,606	18,153	4,612	1,816	255	52,800	48,700	4,130	34.4
H28	241,906	52,030	157,663	10,297	17,908	4,008	1,719	242	52,600	48,500	4,100	32.7
H29	253,340	51,006	169,171	10,833	17,964	4,367	1,777	247	52,400	48,300	4,090	33.9
H30	256,830	48,020	179,578	7,641	17,517	4,074	1,771	242	52,100	48,100	4,010	34.0

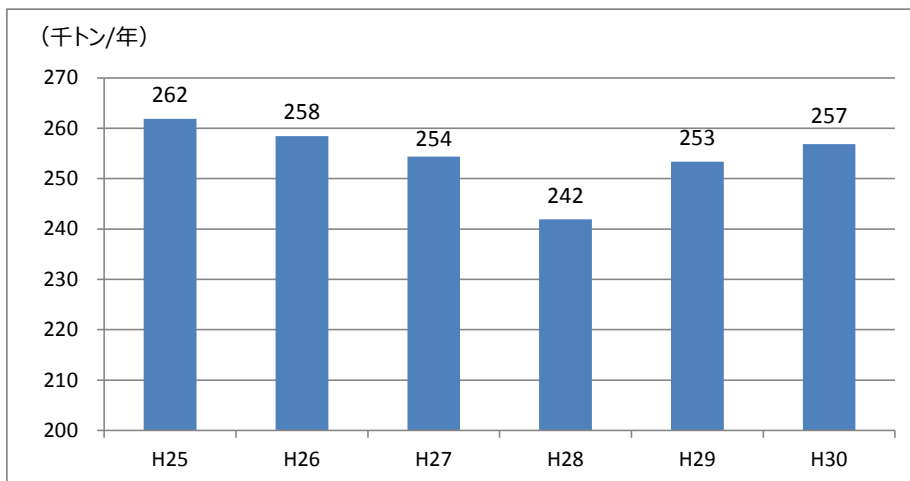
* 発生量および肥料成分推定量は、飼養頭羽数に原単位を乗じたもの

* 原単位は農林水産省農業研究センター公表¹⁾を使用

¹⁾: (財)畜産環境整備機構：家畜ふん尿処理・利用の手引き、3-5(1998)

* 耕地面積は、農林水産省平成29年産作物統計より

図3 年次別家畜排せつ物総発生量



家畜ふん尿の発生と家畜ふん堆肥の利用について

1. 生産と利用の経過

年度	家畜ふん尿発生量 (千t/年)	堆肥量 (千t/年)	利用可能面積(ha)	耕畜連携	
				利用率 (%)	利用量 (千t/年)
H 25	262	178	10,560	66.4	118
H 26	258	176	10,440	66.6	117
H 27	254	173	9,891	66.6	115
H 28	242	164	9,548	69.5	114
H 29	253	172	9,958	72.3	124
H 30	257	175	10,092	71.6	125

※利用可能面積は、堆肥量を畜種別利用可能量で除した面積

2. H30 生産と利用の状況

